



1月30日に第3回検討会を開催し、社会実験の結果などを報告しました。その中で、以下のご意見をいただきました。

検討会で出された主な意見

- ◆ 対策により、車の速度が低下する効果があったことはわかった。
- ◆ 乗用車では問題ないが、トラックがハンプの上を通過する時に音がする。
- ◆ ハンプは、なるべく音を最小限にする設置方法にして欲しい。
- ◆ ゴム製の車止めによって、車の出入りが不便になった。
- ◆ この取り組みは、よいことなので、沿線住民に配慮し、調整を行いながら、よりよいものを造って欲しい。

今後の予定

今後、対策効果検証の結果や、検討会の意見を踏まえ、ハンプ等の本施工に向けて、最終的な対策について検討を進めます。

【平成29年度】

- ・社会実験の実施（平成29年10月5日～11月1日）
- ・社会実験の結果検証（平成29年11月～12月）
- ・第3回検討会（平成30年1月）

社会実験結果の振り返り

【平成30年度】

- ・本格施工（対策の実施）

検討会のメンバー

<メンバー>

- 大倉山明和会長
- 太尾中町会長
- 大倉山エルム通り商店会長
- 大綱小学校PTA
- 港北区交通安全協会大倉山支部長

港北警察署

大綱小学校

港北土木事務所

<オブザーバー>

国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所

国土交通省国土技術政策総合研究所

<事務局>

横浜市道路局施設課

問合せ先・発行元

横浜市道路局施設課

電話(045)671-2785

しろき

担当：青木、銀木



横浜市道路局施設課

港北土木事務所



大倉山三丁目

交通対策ニュース

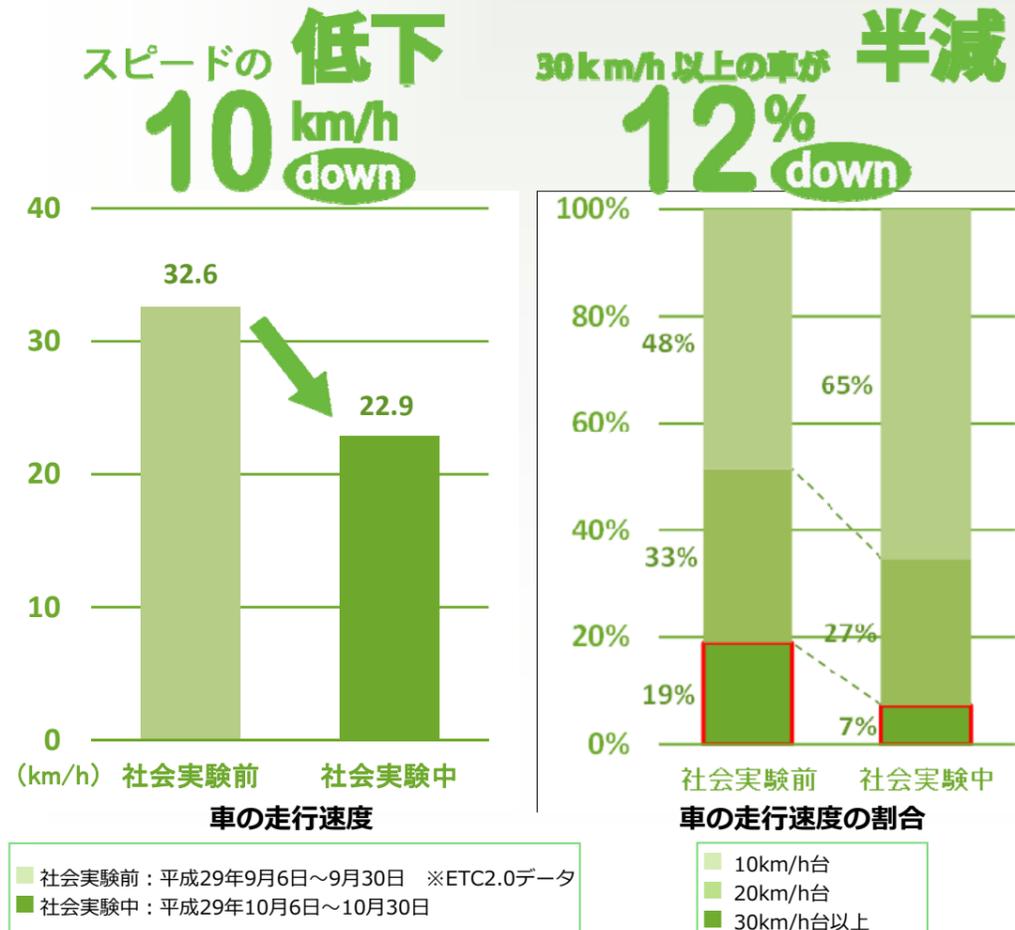
車のスピード抑制を目的としたハンプ・狭さく設置による社会実験が行われました！

みなさん、こんにちは！横浜市道路局です。

横浜市では、通学路など生活道路の安全対策を進めています。このたび、大倉山三丁目地区を対象に、通過する車のスピードを抑制するための社会実験を行いましたので、結果をお知らせします。

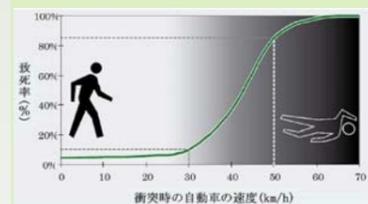
<主な効果>

- ・ハンプ等の設置により、車のスピードが10km/h低下しました。
- ・地域の方の「77%」が安全対策の継続に賛成しました。



時速30kmに抑える理由

時速30kmを超えると死亡事故に至る確率が急上昇します。日本では、住宅街を時速40～50kmで走る車も多く、生活道路では車のスピードを抑制することが大変重要です。



出典：速度マネジメント報告書（世界保健機関）

目次

- 走行速度の結果 1
- 社会実験の概要 2
- アンケート調査結果 3
- 検討会で出された意見 .. 4
- 今後の予定 4

<ハイライト>

- ・社会実験の結果、車両の速度抑制効果が実証されました。
- ・この結果を踏まえて、対策の実施を検討します。

